

『建設事業無災害表彰』制度は、着工から竣工までの間、全工期にわたり労働災害を発生させることなく建設事業を行った事業場に対し、厚生労働省労働基準局長が表彰する制度です。

この度、無災害表彰状を授与された事業場は次のとおりです。

事業場名 鹿島建設株式会社 横浜支店  
横浜市旧市庁舎街区活用事業 既存建設解体工事  
所在地 神奈川県横浜市中区港町1 - 1  
工期 令和3年10月1日 ~ 令和5年6月30日



表彰を受ける岡野学所長（左）

## 現場概要

事業場名 鹿島建設株式会社 横浜支店 横浜市旧市庁舎街区活用事業 既存建設解体工事

所在地 神奈川県横浜市中区港町1-1

工期 令和3年10月1日 ~ 令和5年6月30日

### 現場概要

・建物構造：RC造、・建物階数：地下1階、地上4階、・延床面積：9,275m<sup>2</sup>、・建物用途：市庁舎

### 工事概要

・横浜市旧市庁舎の解体工事（市会1～3号棟、中庭棟）

## 無災害に向けて工夫した取り組み

当工事は、長きに亘り横浜市民に親しまれてきた横浜市旧市庁舎のうち、市会棟、中庭棟を解体するものです。跡地に33階建てのタワー棟（現在、施工中）をはじめとする各種建物を建設し、関内地区の活性化を呼び起こす再開発の初手を担いました。

工事敷地が JR 関内駅及び尾上町通りと接しており、歩行者・車両とも交通量が非常に多いため、公衆災害絶無を最重要課題としました。解体建物は複数あり、棟ごとに階数や形状が異なることを踏まえ、外部への影響が最小となる解体順序を念頭に工事計画を策定しました。解体物の敷地外飛散防止対策は、解体建物の外周をパネル養生足場で囲い、上部を養生ネットで覆う工法を採りました。

その他、搬出入車両管理を徹底し周辺路上待機を禁止、ゲートにガードマンを常駐配置、仮囲いに夜間照明をつけ歩行者通路の照度を確保する等により、公衆災害の発生抑制に努めました。

### 無災害に向けた取り組み

解体工法につき、既存建物の床を補強し、小型重機をスラブ上に設置して建物を解体する階上解体では、作業上、床開口が生じ、作業員や重機の墜落リスクが懸念されたため、超大型重機を用いて地上からロングアームで解体する地上解体工法の採用により、災害発生抑制に努めました。

また、店社で推進している「現場主導（ボトムアップ）型安全管理」の実践の為、現場で働く全員が「安全」に当事者意識を持ってもらうため、季節ごとにイベントを開催して積極的な交流を取ることを通じて、現場の一体感を醸成しつつ、安全指導・啓発が浸透しやすい風土を整えました。

また、月例安全大会で、個々人の安全行動を讃える安全表彰を行ったほか、店社と協力会社組織の共同制作した安全啓発動画の視聴により、安全意識の定着を図りました。

### 苦労した点

敷地内の地下には、市営地下鉄、東電・NTT 洞道、公共下水本管が埋設されており、インフラへの配慮も重要課題でした。市営地下鉄には地下鉄函体の壁面に自動計測器を設置し、建物地下解体で地下鉄函体に影響が生じないことを24時間リアルタイムで監視しながら作業を行いました。

また、軟弱地盤対策にも苦労しました。工事敷地の地盤は非常に軟弱なシルト層であり、解体重機はもとより、作業員が歩いても膝まで沈んでしまう状況で、対策として解体ガラの敷き詰めのほか、地盤改良で作業床を作りながら施工を進めました。

また、主要市街地での工事ということもあり、解体作業中の騒音・振動について、ご近隣の皆様へは事前、また段階ごとにご案内をさせて頂き、特に大きな騒音・振動の発生する作業時には個別にご説明に伺い、ご理解を頂きながら進めました。